



会員のページ

Okinawa Shame

浅川満彦 酪農学園大学獣医学部寄生虫学教室(野生動物学)

来年の大会は、沖縄の琉球大学で開催されることが決定されたが、私にとって、オキナワというと、衝撃的なことがあった。

私は前々号のニュースレターで紹介したように、英国に1年間留学していた。滞在期間中に居住していたのは、ロンドン郊外、サリー州パーリーという石灰岩の採掘で知られた町であった。そして、私達一家(カミさんと3人の子供)は現地の人々との交流を楽しむためと子供を日曜学校に通わすために、日曜日にはその町のキリスト教会に通っていた(私はキリスト者ではないが、勤務先がその方面の大学なので礼拝参加に違和感無し)。日本人が通うことは初めてで、親子ともども、多くの人と友人ができたのは、正に幸運といえる。

さて、そんなある日曜日。その教会ホールで“let them eat cake—Don't repeat the Okinawa Shame at the

G8 summit in Italy next year”と記されたカードが配られていた(写真参照)。Christian Aid というキリスト教教会の横断的組織団体が発行したもので、英國の全キリスト教会に配布されたものという。

「沖縄だって！」びっくりして、手に取ると、そのカードの裏に、「沖縄サミットでは何も新しいものが決まらなかつた。しかし、あきれたことに、その宴会はとても豪華であった。ついては、次回サミット議長国であるイタリア首相殿、この愚行を繰り返すことなく、特にアフリカを中心とする飢餓に苦しむ人々を救済するアクションを強く希望する」と記されているではないか。そして、そのカードに信者が各自署名してロンドンのイタリア領事館に郵送するというもの。

英國(含むヨーロッパ諸国)とアフリカは地理的にも歴史的にも深いつながりがあり、その政治情勢や貧困、環境などはかなり詳細に報道されている。特に、動物好きの英國民は、アフリカが大好きで、BBCその他で毎日のようにその映像が楽しむことができる。しかし、かの地では貧困が



Please send off these cards

While the G8 banqueted... the poor were starved of further debt relief

**OKINAWA SUMMIT 2000
BANQUET MENU**



Bretagne lobster with sea grapes, Vichyssoise ice and yuzu citron
Foie gras, veal sweetbread, and pigeon wrapped in soybean skin with pig ear and herb salad
Grouper with herb sauce, papaya, shallots, tomato and fermented tofu
Grilled Ishigaki beef with Okinawa sauce, Matsutake tempura and sweet potato & black rice croquette
Green tea blancmange with Sicilian almonds and sugared beans

Don't repeat the 'Okinawa Shame' at the G8 summit in Italy next year.

'let them eat cake'

Christian Aid
We believe in life before death

進行中で、人々は生きていくために、森を開墾し、動物を密猟するなど、野生動物にとって過酷な状況が続いていることはご承知の通り。

しかし、私が留学中得た限られた情報でさえ、すべての種が絶望的な状況に瀕しているのではなく、野鳥のある種やアフリカマイマイなどは、地元の人々に食料資源として供給する計画が進行中で、この計画に獣医学の参加が求められている。また、地域住民にとって効果的なエコ・ツーリズムの試みなども官民団体で、具体的に実施されようとしている。

無論、限界があり、大国のバックアップが不可欠なのである。そのような意味で、サミットG8諸国はそれだけ期待されていた。でも、結局、無為無策。当然、議長国であった日本にその責任があるとなる。

豪華な宴会で、国外の来賓を饗應するのは日本の伝統で、それはそれで結構なこと。しかし、饗應された食材の大部分が、アフリカなどのような開発途上の国々から輸入されたものであり、輸出地の環境悪化(例:養殖エビのマングローブ林の破壊)、あるいは野生動物への直接的悪影響(例:マグロ漁における海鳥や哺乳類の混獲)を与えながら生産されている。野生動物の多大な犠牲の上で、その食材入手していることを、特に我々、野生動物医学会会員は、まず理解すべきであろう。その後である。環境保全とか野生動物の保護とかは。

サミットでも、経済や安全のほか、環境も重要なキーワードである。特に経済と環境は、前述のように不可分なのだ。これを知っておれば、件のカードに掲載された宴会料理は出なかったであろう。自らの食材に無邪氣であることは、いまや、犯罪に近い「事件」であった。

それにしても気の毒なのは沖縄である。滞在して実感したが、英國民は、日本の詳細などご存知ない。まして沖縄などほとんど知らなかったはずである。しかし、彼らの多くにとって沖縄という地名は、「ああ、あの Okinawa Shame の」とインプットされてしまったことであろう。ヤマトと琉球との間は、決して幸の多いものばかりではないが、どうやら、このサミットもその一つになってしまった感がある。沖縄大会ではこの汚名を払拭するものにしていただければと、会員の1人として痛切に感じる。